



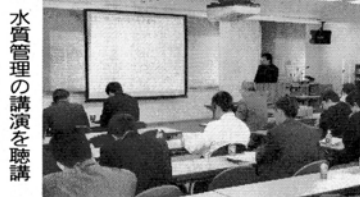
齋藤部長

技術力の向上めざし 水質管理の実情学ぶ

道O&M
水研 研究会

技術力の改善・向上に役
立てようと、水道O&M研
究会（会長＝藤田賢二・東
京大学名誉教授）は11日、
東京・九段南の日本水道会
館で「水道事業における水

質管理」をテーマにした講
演会を開き、約100人が
参加した。
講演では、水道技術研究
センターの齋藤昇調査事業
部長が自身の経験を踏まえ
ながら①水質基準の内容②
水質監視への取組み③業務
指標の活用④今後の水質管
理の4つを軸に、水源



水質管理の講演を聴講

から浄水場までの水質管理
の実例を紹介した。

講演冒頭、齋藤部長は

「水道水はお客さまが直接
口にするものだから高い安
全性が求められるのは当然
だ」とし、水源から蛇口に
至るまでのきめ細やかな水
質管理の必要性を強調。

また、水源水質が浄水処
理に与える影響について、
高湿度やカビ臭などの現象
が発生した際の対処方法を
提示。「一つの方法だけが
ベストというわけではない
が、即断を求められる現場
においては有効な策だ」と
アドバイスした。

会場からは「改正前・後
の水質基準で大きく違うと
ころはどこか」「使用者は
水道水に対してどの程度の
おいしさを求めているか」
などの水質に関する幅広い
質問が出された。

同研究会の川崎信彦技術
委員長は「第三者委託の進
展はまだまだ。このような
機会を通して会員の技術力
向上を図り、受注増に繋が
ていきたい」と話していた。